

令和四年度 文化財防災センターシンポジウム

無形文化遺産と防災

―被災の経験から考える防災・減災―



開催場所

東京文化財研究所 地下二階 セミナー室
東京都台東区上野公園一三・四三

開催方法

対面開催（オンラインでの配信は行いません）

人数

五〇名（応募者多数の場合は抽選を行います）

応募方法

参加希望の方は、

(一)氏名 (二)連絡先（メールアドレス）

を明記の上、申し込み先のメールアドレスまで
お申し込みください。応募締め切りは、令和
五年二月十日（金）十七時です。

参加の可否については応募締め切り後、メール
にてお知らせいたします。

申し込み・
お問い合わせ
先

東京文化財研究所 無形文化遺産部
電話 〇三・三八二二・二九九二
FAX 〇三・三八二二・四八五四
メール

sympo_bosai_tobunken@nich.go.jp

主催

独立行政法人国立文化財機構
文化財防災センター

共催

東京文化財研究所

令和五年

三月七日（火）

午前 十時 ― 午後 五時

開場／九時四〇分

平成二三年三月十一日の東日本大震災とその後の対応を契機に、地域の無形文化遺産が、復興過程における人々の精神的な支えとなる可能性が見出されました。未曾有の大災害は、無形文化遺産に大きな被害をもたらしましたが、一方で、それらが今日まで継承される意義や、地域社会のなかで果たす役割に注目が集まるきっかけともなつたのです。

東京文化財研究所では、大震災

発生後、無形文化遺産部を中心に無形文化遺産の被害状況の把握や情報収集に取り組んできました。令和二年十月には、文化財の防災に取り組む機関として、国立文化財機構本部内に新たに文化財防災センターが設立されました。今後は、両者で連携を取りながら、これまでの成果を活かし、より具体的な対策を提案できるように取り組んでいきます。

本シンポジウムの開催をとおして、無形文化遺産に関わる皆さんと、これまでの成果や課題を共有し、どのようなかたちでその成果を展示させていけるのかを考えたいと思います。

令和四年度 文化財防災センターシンポジウム

無形文化遺産と防災

—被災の経験から考える防災・減災—

プログラム

- 10:00 開会挨拶 高妻洋成 (文化財防災センター長)
10:10 趣旨説明 小谷竜介 (文化財防災センター)

● 第一部 報告 (10:20～12:00)

- 10:20 報告1
「地域復興のための無形伝承-無形文化遺産部の取り組みから-」
久保田裕道 (東京文化財研究所)
10:50 報告2
「無形文化遺産の防災に係るセンターでの取り組み状況」
後藤知美 (文化財防災センター)
11:20 コメント1 前原恵美 (東京文化財研究所)
コメント2 佐藤翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)
11:50 質疑応答
12:00 休憩

● 第二部 事例報告 (13:30～15:15)

- 13:30 事例報告1
「まつりの被災対応-等覚寺の松会・松庭の復旧について-」
若杵善満 (菟田町教育委員会)
13:55 事例報告2
「雄勝法印神楽の道具の再生」
阿部久利 (雄勝法印神楽保存会)
14:20 事例報告3
「コロナ禍における祭礼開催をめぐる地域社会での合意形成-滋賀県・長浜曳山祭を事例として-」
武田俊輔 (法政大学)
14:45 質疑応答・小括
15:15 休憩

● 第三部 総合討論 (15:30-16:50)

- 15:30 [コーディネーター] 今石みぎわ (東京文化財研究所)
[パネリスト] 村上忠喜 (京都産業大学)
宮田繁幸 (東京福祉大学)
日高真吾 (国立民族学博物館)
野嶋洋子 (アジア太平洋無形文化遺産研究センター)
佐藤翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)
小谷竜介 (文化財防災センター)

- 16:50 閉会挨拶 早川泰弘 (東京文化財研究所無形文化遺産部長)

等覚寺の松会
福岡県京都郡菟田町



雄勝法印神楽
宮城県石巻市



長浜曳山祭の曳山行事
滋賀県長浜市
(長浜市役所広報課提供)

